

## ● フジカンゾウとヌスビトハギをくらべる

ここにはマメ科の植物が2種類あります。

みなさんがよく知っているヌスビトハギと、きれいな花が咲いているのがフジカンゾウです。

フジカンゾウは藤色の大きな花と、小葉が5枚または7枚の複葉が特徴です。

ヌスビトハギの花はずっと小さいのと、小葉が3枚の複葉です。

ヌスビトハギはずいぶん物騒な名前ですが、この果実の形が泥棒が家にしのび込むときに足音がしないように足の裏の外側を使って歩く、その足跡の形から名付けられたという説がありますが、どうでしょうか。あるいは、果実には細かいかぎ形の毛が生えていて衣服などにくっつくので名付けられたとも言われています。

フジカンゾウは花がフジの花に似ていて葉がカンゾウ（甘草）に似ているので名付けられたようです。甘草は紀元前から薬として利用されて、また甘味としてもお菓子や味噌、醤油などに多く利用されています。

ヌスビトハギに似ていて最近多く見られるのが、北アメリカ原産の帰化植物、アレチヌスビトハギです。ヌスビトハギに比べると花が大きく、果実（節果）は3から6節あります。葉に毛が多いのも特徴です。

以上の3種で、ヌスビトハギとフジカンゾウはヌスビトハギ属ですが、アレチヌスビトハギはアコウマイハギ属に分類されました。



ヌスビトハギ。果実は赤褐色の



フジカンゾウ。花も果実もヌスビトハギよりずっと大きい



参考: アレチヌスビトハギ

花は大きくてよく目立つ。果実の縁の部分も含めて全面にかぎ毛があって、引っ付く力はとりわけ強い